

れき ぶん

となん歴史民だより vol.55

Morioka tonan history and folklore museum

平成30年6月30日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



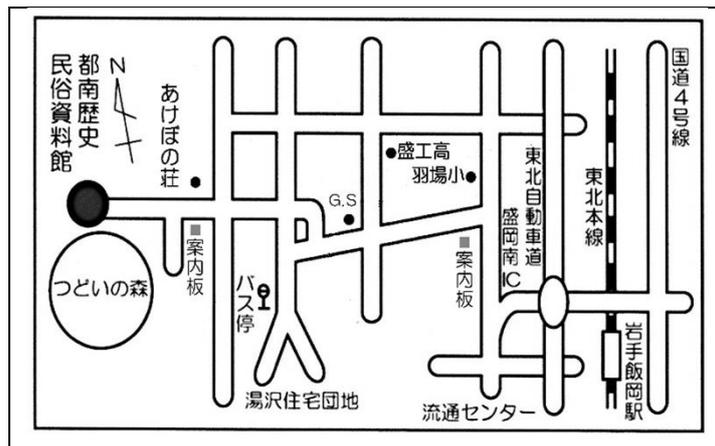
企画展「都南歴史民俗資料館 新収蔵資料展」

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 企画展「都南歴史民俗資料館 新収蔵資料展」のご案内
- 第一回茶話会終了のお知らせ
- 資料は語る(55)
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介(55)
- となんの昔ばなし(55)

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無 料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始

企画展「都南歴史民俗資料館 新収蔵資料展」のご案内

当館では、平成30年6月16日(土)～8月26日(日)の期間、企画展「都南歴史民俗資料館新収蔵資料展」を開催しております。

平成25年(2013)から同29年(2017)の5年間で、15名の方から寄贈を受けた471件655点もの膨大な資料のうち、厳選した58件107点の資料を展示しています。新収蔵資料展は、資料をご寄贈くださった方への感謝の意を示すとともに、当館の資料収集活動の成果をお伝えするために開催するものです。

ダイヤル式黒電話機のようなちょっと懐かしいもの、羽場山伏神楽で使用された脇差のような貴重な民俗資料、昭和45年(1970)の岩手国体の^{きよか}炬火リレーで使用されたトーチホルダーのような珍しい資料をバラエティ豊かに取りそろえています。



盛岡市都南歴史民俗資料館
新収蔵資料展

平成30年6月16日(土)～
8月26日(日)

〒020-0842
盛岡市湯沢1-1-38(都南つどいの森内)
TEL/FAX 019-638-7228
【開館時間】9時～16時【入館料】無料
【休館日】月曜日(祝日の場合は翌平日)
【会場】盛岡市都南歴史民俗資料館

新収蔵資料のご紹介

●羽場山伏神楽脇差

羽場山伏神楽で使用されていた脇差です。昭和56年(1981)～57年(1982)頃からは模造刀を使用しており、この資料はそれ以前に使用されていたものです。身が錆びているため^{じがね}地鉄や刃文は不明で、銘もありません。そのため、どこでいつ頃作られたものか不明です。

羽場山伏神楽は、古文書の存在により400年以上の歴史があることが判明しています。数度の衰退を乗り越えて再開され、継承されてきましたが、現在は後継者不足のため活動を休止しています。

●謄写版

ガリ版ともいいます。ヤスリの上にロウをひいた紙を置き、鉄筆でガリガリ引っ搔くことで網目状の穴を開けて製版します。謄写版にこの版をセットし、ローラーにインクを付けて転がして印刷します。

展示されている資料は昭和55年(1980)～平成4年(1992)に使用されていたものです。



謄写版

●大澤関係者一同契約書綴

上猪去で人馬の飲料水や田の灌漑用水として使用されていた大澤の水を、利用する上での約束ごとが書かれた契約書です。従来、限りのある水を公平に分配するため新田を起こすことは禁じられていましたが、この約束ごとを破る者がいたため、再び、新田を起こすことなどを禁じる契約をしています。この契約を破ると子孫末代に至るまで除名となり、冠婚葬祭の付き合いや全ての交際を断絶される、という非常に厳しいものでした。

レコードを聴いてみよう！



新収蔵資料展では、岩手や盛岡ゆかりの曲のレコードやソノシートが多数展示されています。83点ものレコードは、企画展開催期間中、実際に聴くことができます。針が奏でる風情のある音を、ぜひ聴きにいらしてください。

ご希望の際には、一覧表の中から聴きたいレコードを選び、職員にお申し出ください。

曲の例：「岩手音頭」「盛岡音頭」「都南音頭」「盛岡ブルース」「外山節」

「嫁に来ないか」「北国の春」

高等学校校歌（盛岡一高・二高・三高・商業・北高・久保学園〔現：盛岡誠桜〕）

中学校校歌（下橋・下小路・仙北・黒石野）

第一回茶話会終了のお知らせ

当館を事務局とする「となん・かけはしの会」の活動である、平成30年度第一回茶話会は、去る6月2日（土）に開催されました。講師に一般財団法人新渡戸基金理事長の藤井茂氏をお招きし、「岩手の偉人 田中館愛橋」と題した講話を聴講しました。

田中館愛橋の人生を、新渡戸稲造との関わりなども交えながらお話いただきました。藤井氏の豊富な知識と数多くのエピソード、軽妙な語り口で田中館の人柄がよくわかり、あっという間の約90分でした。この場をお借りし、藤井様に御礼申し上げます。

なお、「となん・かけはしの会」では、随時会員を募集しております。主な活動は、①茶話会（年6回の講座）②当館事業への協力③史跡・文化財巡り（年1回）です。このほか、会員の調査・研究について意見交流する機会や当館所蔵資料についても紹介しておりますので、ぜひご参加ください。

「となん・かけはしの会」に関するお問い合わせは、当館で受け付けております。お気軽にお問い合わせください。（盛岡市都南歴史民俗資料館 019-638-7228）

資料は語る⑤



【軍隊手帳】

この資料は旧日本軍の軍隊手帳で、中には軍人勅諭が印刷されているほか、所持者の氏名、本籍、生年月日、服のサイズ、身長、学歴、軍での経歴などが記載されている。

手帳の所持者は明治33年(1900)に生まれ、大正9年(1920)に徴兵で入隊している。大正11年(1922)5月には「浦潮港(ウラジオストック)上陸」、同年11月には「西伯利(シベリア)出兵事件ノ勤勞ニ依リ金八十圓(円)下賜」との記載があり、シベリア出兵という歴史的出来事の中に生きていた一兵卒の人生が浮き彫りになる資料である。

盛岡市所在指定・登録文化財紹介⑤

国指定重要文化財



岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館

明治44年(1911)、盛岡銀行の本店行舎として落成したもので、辰野金吾^{たつのきんご}と盛岡出身の葛西萬司^{かさいまんじ}が主宰する辰野・葛西建築設計事務所による設計です。同事務所は大正3年(1914)に東京駅丸の内駅舎も手がけています。

赤煉瓦の壁面に白い花崗岩の帯を廻らし、屋根は銅板葺き(ドーム部分はスレート葺き)です。その姿は盛岡のランドマークとして親しまれており、現在は「岩手銀行赤レンガ館」として内部が公開されています。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

『エミシの高丸王』

となんの昔ばなし五十五

昔々、大和朝廷は、現在の岩手県や宮城県を日高見の国といいました。日高見川(北上川)が流れる広々とした平野で、その地の住民たちはエミシと呼ばれました。

日高見の志波に高丸王というエミシの長がおりました。大和朝廷は日高見も自分の国にしようと思い、エミシに戦いをいどみました。高丸をはじめ、エミシと呼ばれる人々は、だれもがいきどおり、戦いを受けて立ちました。

高丸は各村の人々を兵にまとめて、白河(現福島県)を越えて都に向かいました。途中の富士の裾野の清見が関という所で、坂上田村麻呂の軍と出会い、高丸は奮戦し、田村麻呂の軍は負けそうになりました。と、ふしぎに田村麻呂の旗の上に、紫雲がたなびき光明がひかり、エミシたちはその光で、毒にあたったようになって、負け戦になり、ほうほうの体で逃げて帰りました。

坂上田村麻呂は都の清水寺の観世音のおかげであると思いい、次々とエミシをせめて、日高見の志波まで来、さらに今の太田の方八丁というところに、志波城を築いて戦いました。

多くの仲間を失った高丸は、傷ついた体で、岩手山の大嶽丸王をたよって、逃げのびていきました。

それから、何百年後、誰いうと無く、高丸王や仲間をとむらった墓を「高館」というようになりました。高館は上飯岡にあります。

出典『となんの民話』(都南歴史民俗資料館、一九八八)

※あくまで伝説であり、史実に基づくものではありません。